



各地で猛暑となった今年の夏、過ぎてしまうと暑さも忘れてしまいます。街はハロウィン一色！！かと思うと、今度はクリスマス……。あっという間に今年が終わってしまわないよう、一日一日を大切に過ごしましょう🍬



本年度より課題数増！共用試験 OSCE

4年生を対象とした臨床実習前の共用試験OSCEおよびCBTは、Student Doctorとして臨床現場に出るための第一歩となります。身体診察や医療面接といった臨床能力を試す実技試験であるOSCEが、10月22日(土)に行われました。来年度(令和5年度)からこれらの共用試験は公的化することが決まっています。公的化とは、国家試験のように法律に基づいてより一層厳格に行われ、合格者には医行為を行うStudent Doctorという称号が法的に与えられることを意味します。さらにこれに伴い、OSCEの課題数が増加することになっています。本年度は早速、公的化に向けた準備段階として、課題数がこれまでの6課題から8課題へと増えました。多数の小部屋で区切られている実習棟A2階や医修館4階、実習棟B2階の3会場が試験場となり、例年より多くの教員、スタッフが各会場で試験を支えました。学生らもこれに応えるように真剣に課題に取り組んでいました。4年生にとっては初めての実技試験で、戸惑う学生もいたようですが、医師への第一歩となる重要なスキルですので、臨床実習が始まるまでに確実に習得して欲しいと思います。

今年度は初の試みとなる8課題実施でしたが、滞りなく全日程を終えることができました。外部から参加された機構監督責任者の先生からも、「運営は素晴らしく非の打ち所がありません」と高い評価を頂きました。この度の試験にご協力頂きました関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。来年度の公的化後も更なるお力添えをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



臨床に即した実技試験 Post-CC OSCE

Post-CC OSCEは、前述の“いわゆるOSCE”であるPre-CC OSCEが、より臨床現場に即した試験に深化したもので、すべての臨床実習を終えた6年生を対象に行われます。本年度は7月16日(土)に実施しました。このPost-CC OSCEでは、臨床研修開始時に必要とされる臨床能力を備えているかどうか問われ、鑑別疾患を考えながら医療面接や身体診察を行い、指導医に報告するという一連の能力が求められます。Pre-CC OSCEが、決められた項目を抜かりなく聴取したり、指示に従って診察を正しく行うものであるのに対し、Post-CC OSCEではどんな疾患が考えられるかを想定しながら、診断のために必要な診察を進めていくという点に違いがあります。臨床推論を行う知識のみならず、臨床実習への参加度や積極性も大きく影響する試験ですので、来年度受験する現在5年生の皆さんは、より気を引き締めて臨床実習に励んで下さい。

憧れのお医者さん... 「医師職業体験」for高校生

8月7日(日)、山口市の県医師会館にて山口県医師会主催の『医師の職業体験』が行われました。これは高校生を対象としたイベントで、平成29年に山口県医学会第100回を記念して行われたのが発端となり、以降好評につき毎年実施してきました。しかし近年はコロナの影響により開催を見合わせていました。3年ぶりとなる今回の開催に当たり、何より気を配ったのは感染対策です。感染予防に配慮しつつ、参加者に十分に医師の魅力や医学の面白さを実感してもらうため、**県医師会及び医学教育センターを始め、大学で臨床に携わる医師や医学科の学生有志ら総出で指導に当たりました。**医学部には『コードオレンジ』という、救急蘇生を普及する活動を自主的に行っている学生グループがあり、本体験会へも幾度となく参加してもらっています。彼女らの救急蘇生講座は、分かりやすいためになると大変好評でした。また、**採血や縫合**といった侵襲を伴う医療者ならではの**手技が体験できるブース**では、本物の注射針や手術器具を用い、シミュレーターに対して手技を行ってもらいました。これらの体験はとても新鮮であったようで、「**もっと時間をかけて取り組みたい**」「**医学生からもっと話を聞きたい**」などの意欲的な意見も寄せられました。**約30名の高校生が参加しましたが、この中から将来、山口県の医療を担う素晴らしい人材が出てくると思うと、大変頼もしく感じました。**

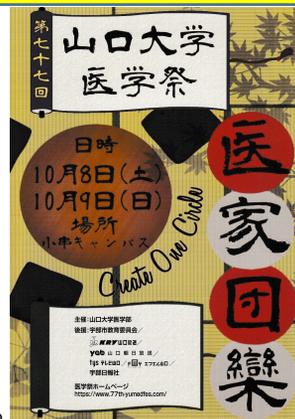


第1回 ホームカミングYUMEフェスティバル ～3年ぶりの開催 医学祭！！～

10月8日(土)、9日(日)に、小串キャンパスにおいて、3年ぶりとなる医学祭が開催されました。医学祭実行委員が中心となり、多様な展示・イベントを展開しました。コロナの影響で前回の実施から期間が開いたことで、**企画・準備のノウハウ継承が十分に行えていない**という状況の下、さらに**決して穏やかではない感染状況の中、よく創意工夫して開催にこぎつけた**など感心します。手洗い、手指消毒や密の回避といった基本的な感染対策はもちろんのこと、お祭りの醍醐味ともいえる**飲食**についても厳しいルールを設け、実施に対する学生らの**真摯な姿勢**がうかがえました。

また本年度は、**初となる山口大学医学会との共同開催**とのことで『ホームカミングYUMEフェスティバル』という夢のあるネーミングとなっています。同医学会の学術講演会では**4名の医学科学生が研究成果を発表**しました。また、特別企画として『Dr.コト一診療所』原作者である漫画家の**山田貴敏氏**のご講演もありました。漫画本にサインをして渡すというサービスまであり、会場を沸かせていました。

無事に医学祭を開催することができた達成感や充実感は、学生たちにとって大きな財産となると思います。これからの学生生活にも生きてくるものと期待しています。



ご意見・ご要望等につきましては、医学教育センターへ
お願いします。 TEL: 0836-85-3747

E-mail: mec01@yamaguchi-u.ac.jp